

1. 調査報告概要表

作成日 平成19年12月24日

【評価実施概要】

事業所番号	4270500491
法人名	医療法人 牧山医院
事業所名	グループホーム ライフ
所在地	長崎県大村市宮小路2丁目1408番地 (電話) 0957-55-7839
評価機関名	特定非営利活動法人 福祉総合評価機構
所在地	長崎市桜町5番3号 大同生命長崎ビル8階
訪問調査日	平成19年 12月 5日

【情報提供票より】（平成19年11月4日事業所記入）

（1）組織概要

開設年月日	昭和 <u>平成</u> 14年 3月 1日
ユニット数	1 ユニット 利用定員数計 9 人
職員数	7 人 常勤 6人, 非常勤 1人, 常勤換算4.8人

（2）建物概要

建物構造	木造平屋 造り 1 階建ての ～ 階部分
------	-------------------------

（3）利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃 (平均月額)	13,000～28,000 円	その他の経費(月額)	13,000 円
敷 金	有 (円) <u>無</u>		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 (円) <u>無</u>	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食 円 昼食 円 夕食 円 おやつ 円 または1日当たり 1,000 円		

（4）利用者の概要 (12月 5日現在)

利用者人数	9 名	男性 0 名	女性 9 名
要介護1	3 名	要介護2	1 名
要介護3	4 名	要介護4	0 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 87.7 歳	最低 83 歳	最高 97 歳

（5）協力医療機関

協力医療機関名	医療法人牧山医院 医療法人中沢医院 井上歯科
---------	------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

ホームは自治会など地域活動の盛んな住宅地域に位置している。ホーム居間の扉から母体の医院への行き来ができ、緊急時の搬送や日常の通院、リハビリなど有効に行われている。管理者とケアマネージャーが中心となり職員の介護向上に向けた取り組みが積極的になされている。運営理念と介護についての話し合いも十分になされている。職員も研修や勉強会への積極的な参加がなされ、日々の介護や記録作成などに反映されている。地域との連携が相互的でお互いの行事への参加や消防訓練が密になされている。利用者も家庭的なホームの中で、日常生活を送っており、食品や日用品の買い物に出かけたり、リビングで会話を楽しんだり笑顔あふれるホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況（関連項目：外部4） 前回の改善点はスタッフ会議を行い、改善にむけた取り決めがなされていた。管理者とケアマネージャーが中心となり、職員の介護意識の向上に向け担当者制の導入や、薬の誤飲防止薬や副作用の勉強会に関しては法人薬局を交えた工夫が行われている。 今回の自己評価に対する取り組み状況（関連項目：外部4） 職員は自己評価・外部評価の意義を十分理解しており、今回の自己評価も職員各々で行った上でまとめられている。
重点項目②	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み（関連項目：外部4, 5, 6） 運営推進会議は本年2ヶ月に1回家族・民生委員・町内会長・管理者・介護計画担当を交えて行われている。ホームの理念説明や外部評価の報告、地域共同参加の消防訓練や敬老会や花見等について話し合いがなされている。会議の内容は市へ報告している。
重点項目③	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映（関連項目：外部7, 8） 介護計画見直し時、家族面談を設けて意見要望をくみ上げ、月1回のミーティング時に話し合われている。また意見箱が設置されている。契約書およびホーム内に苦情窓口の掲示がされている。遠方の家族へは生活便りと新聞の発送や電話連絡を密に行って意見交換を行っている。
重点項目④	日常生活における地域との連携（関連項目：外部3） 自治会と交流が盛んで、自治会の焼き芋会や、手紙教室、リハビリ教室へ参加や、ホームの敬老会への招待など行われている。また老人会に所属している利用者もおお地域との関わりを保っている。消防訓練は自治会・周辺住民の積極的な参加がある。隣町自治会とも親睦に努めている。

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	これまでの理念を基に地域密着型介護について理事長も含め話し合いがなされており、新たに理念の見直しを検討している。	○	次年度に地域密着型の文言も含め作り替える話し合いが理事長ともなされており実施に期待したい。
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ケアカンファレンス前に理念の理解を深める話がなされている。職員は利用者との話し方など常に注意しあったり、情報を共有し安心して生活出来るよう努めている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	焼き芋会や、手紙教室、リハビリ教室へ参加している。敬老会は町内会や利用者の家族を招き交流を深めている。消防訓練は地域と声掛け合って行われ、地域との親睦に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	職員は自己評価・外部評価の意義を十分理解している。前年度の評価を管理者・ケアマネジャーは具体化し職員と解決に向け話し合われている。薬に関しては薬局を交え、工夫や副作用についても学ぶなどの改善が見られる。職員は利用者の担当者制度の導入により、評価の活用の意識が高まっている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は、2ヶ月に1回家族・民生委員・町内会長・管理者・介護計画担当を交えて行われ、地域共同参加の消防訓練や敬老会や花見等について話し合い、内容を市へ報告している。	○	来年度より市職員の参加を依頼しており、より充実した運営推進会議を期待する。
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の担当者へ防災の書類等問い合わせや実施者研修や講演会の紹介を受けている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	事業所での利用者の様子・健康状態・金銭管理について毎月面会時に報告している。利用者の状態の変化や職員の異動については、随時報告され、遠方の家族へは事業所新聞や状況に応じて電話連絡している。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	カンファレンスで家族の意見を聞く機会があり、月1回のミーティング時に話合われている。家族の意見箱が設けられている。契約書およびホーム内に苦情窓口の掲示がされているが第三者機関の表記はない。	○	行政機関、その他機関の連絡先表記で家族へ外部者に相談できる場を設けることが望まれる。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	運営者は異動の1ヶ月程前から利用者や家族へ知らせており、異動後も事業所内で声をかけをし利用者とコミュニケーションを取っている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人の研修は2・3ヶ月に1度行われ、年間計画が作成されている。外部研修は職員のレベルにあったもの、要望に応じたものを受講できる体制である。研修報告はミーティングで行い資料閲覧できるようにしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	大村市連絡協議会を通して他のグループホームと交流があり、意見交換を行いミーティングで報告し励みとなっている。他のグループホームと1日入れ替わりをし意見交換が行われた。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事業主体の医院から直ぐに入所となる場合や家族が見学に来られ希望されたり、入所前にショートステイし入所を決めた例が有り、入所初めは家族と相談し利用者に徐々に慣れてもらうよう面会を多めにするなどの工夫をしている。個々の生活歴を作成し職員で共有しながら対応を話し合っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	食事作りや配膳、洗濯たたみや拭き掃除シート交換等職員と共に行っている。歌が好きな利用者が多く共に楽しみ、針仕事や料理を習ったり、話を聞いてもらう事も有り支えあう関係を築いている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の暮らしの中で、利用者の表情を見て様子がいいつもと違った場合等職員が部屋で直接話しを聞き、家族へお願いし電話で声を聞いてもらったり、常に利用者の思いに耳を傾けている。月一度は介護相談員が利用者と一対一で会話をし要望を職員へ伝えている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	日常会話から利用者の要望を聞き出し個人別に記録している。また利用者の担当者、ケアマネジャー、家族とで面談を行いケアプランへ反映している。職員はモニタリングやカンファレンスを行い意見交換をしいる。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月・6ヶ月毎に見直しを行っており、緊急時にはその都度見直して家族に報告している。毎月全員参加のカンファレンスを行い、利用者に必要なプラン、家族や本人の希望が取り込まれている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	かかりつけ病院の受診や美容院、お墓参り等利用者の要望に応じた外出や、家族との外泊に柔軟に対応ができています。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所前からのかかりつけ病院の継続が可能である。皮膚科など新規に受診する場合も家族への連絡を行い納得してから受診している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入所時の説明で重度化した場合は、法人の病院や家族の支援のもと、グループホームでの生活を望むかを口頭で行っているが、重度化に関する資料の作成までには至っていない。	○	重度化・終末期について事業所としての対応方針を検討・文書化し、家族にも同意を得ることが望まれる。
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員へは入社時に個人情報の取り扱いに関する誓約書を作成し、常に話題にあげている。利用者の尊厳を大切にしており、特にトイレ等の声かけには注意を払っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとりひとりのペースに合わせて買い物や外出の支援をしている。		

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は食材が偏らないよう工夫し季節に合ったメニューや好みを取り入れ、利用者と共に手作りし、職員も同じものを一緒に食べ、会話を楽しみながら食事をし、見守り支援を行っている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	主に午前中が入浴時間になっているが、入浴の順番も入りたいタイミングやその日の利用者の状態に合わせて考えている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物たたみや食事作り、食事の配膳等手伝ってもらったり、歌を歌ったり、漢字ドリルで楽しく過ごしている。人生の先輩としての知恵を話してもらったりして気分転換法を探り支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	午後の時間を利用して利用者の要望に沿った外出や買い物の支援や、日用品・食材の買い物を利用して外出を行っている。車椅子利用者も外出等気晴らしの支援も行われている。		
(4)安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室や玄関、病院内への通用口は鍵はかかっていない。リビングにある病院内通用口チャイムが設置されており、職員と利用者でくつろいでいるときも反応している。	○	通用口のチャイム音だけに頼らず、見守りを中心とした支援の可能性を検討することを期待する。

外部評価	自己評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけしている	災害時の緊急連絡網も決められており、利用者の避難の誘導について消防署の指導を受けている。地域の方々と合同で夜間を想定して水害、停電、地震で水が止まった時の対応について訓練を行っている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の記録は個々に記録に取っている。水分を特に必要とする利用者は食事の前に水分補給を行い、常に給水を心がけている。給水、排泄記録を取りひとりひとりに合った支援をしている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関や廊下には季節感の有る折り紙の作品を飾ったり、リビングはカーテンを取り付け外部からの視覚への配慮がなされている。テラスでは外気を楽しめるスペースが工夫されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家族の意見や事業所からの要望等相談し合っている。各室内に好みに合った演出がなされており、摺り立ちをする際の危険な物を取り除いたり、家具の位置など安全面についても配慮がなされている。		

※  は、重点項目。